

一 一念信解の事

仰せに云はく、此の経文は一念三千の宝珠を納めたる函^{はこ}なり。此は現在の四信の初めの一念^{しんげ}信解なり。さて滅後の五品の初めの十心具足^{じゅうしんきそく}初随喜品^{しゅずいきほん}も、一念三千の宝を積みたる函なり。法華経の骨髓、末法に於て法華経を修行する相^{そうみょうふんみょう}貌分明なり。所詮信と随喜とは心同じなり。随喜するは信心なり、信心するは随喜なり。一念三千の法門は信心随喜の函に納まりたり。又函とは所謂南無妙法蓮華経是なり。又此の函は我等が一心なり。此の一心は万法の総体なり。総体は題目の五字なり。一念三千と云ふが如く一心三千もあり。釈に云はく「介^け爾^にも心有れば即ち三千を具す」と。又宝^{ほう}函^{かん}とは我等が色心の二法なり。本迹両門・生死の二法、止観の二法なり。所詮信心^{しんしん}の篋^{はこ}に入れたる南無妙法蓮華経の函なり云云。